

平成30年度 さいたま市立三橋中学校 学校だより



架け橋

第8号

(平成30年11月1日発行)

ホームページ: <http://mihashi-j.saitama-city.ed.jp/>

E-mail: mihashi-j@saitama-city.ed.jp

学校教育目標 : ゆたかに・かしこく・たくましく

決して手にすることのないメダルのために

校長 永岡 良規

10月上旬、3年生が部活動を引退し、新チームになったの初めての大会である新人体育大会が行われました。本校では、男子バドミントン部、男子卓球部、陸上部、男子ソフトテニス部が団体戦や個人戦で県大会出場を果たしてくれました。新人体育大会は学校総合体育大会と違って、今後に繋げていかななくてはならない大会です。一人ひとりの選手が大会を振り返り、自分の課題を明確にして冬季大会や来年度の学校総合体育大会に向けて準備してほしいと思います。

ところで、2年前のリオ五輪で卓球女子団体が銅メダルを獲得したのを覚えていますか。15歳という若さでメダルを獲得した伊藤美誠^{みま}選手の活躍がニュースで大きく取り上げられました。しかし、私はその事とともに、メダル獲得に大いに貢献したもののメダルを手にする事ができなかった平野美宇^{みう}選手の話にとっても感動したのです。

卓球の団体戦は3人（リオでは福原、石川、伊藤の3選手）でチームを組んで戦う種目ですが、リザーブ（補欠）の選手としてもう1人の選手がオリンピックに帯同していました。それが平野選手でした。伊藤美誠選手はメダル獲得後、インタビューの中で「一緒にオリンピックに来てくれた平野美宇選手が一番頑張ったと思う。」と同じ歳の平野選手への感謝の気持ちを表しました。平野選手はオリンピックのリザーブに決まってから、決して自分が獲得することのないメダルのために、レギュラーの3人以上に前向きに練習に取り組み、日本チームのメダル獲得に大きく貢献したのです。リオ五輪における、陰の力に徹した平野選手の頑張りこそスポーツマンシップという言葉にふさわしい姿であったと思います。決して自分が手にすることのないメダルを仲間の選手が手にするために精一杯頑張った平野選手、翌年の世界選手権では、日本人として48年ぶりのメダルを獲得しました。

部活動においても、レギュラーとして試合に出る人とそれをサポートする人がいます。大切なことは試合に出る人だけがチームに貢献するのではなく、全員がなくてはならない存在であることをみんなが理解すること、そして、伊藤選手と平野選手のように互いに支えあうということです。

「ALL FOR ONE. ONE FOR ALL」。全生徒がいろいろな場面で、この言葉を行動に表すことができる学校。三橋中を今まで以上にそんな学校にしていきたいと思います。